

# 新緑の杜の都を駆け抜ける —仙台国際ハーフマラソン大会を開催

5月10日、第25回仙台国際ハーフマラソン大会（杜の都ハーフ2015）が開催され、過去最多の1万3932人の選手たちが新緑の杜の都を駆け抜けました。今年も、国際姉妹・友好都市、交流促進協定締結都市からの招待選手のほか、昨年に引き続き「公務員ランナー」の川内優輝選手や、世界陸上北京大会日本代表の藤原正和選手、重友梨佐選手、前田彩里選手など、国内外で活躍する多くの実力者が顔をそろえる注目度の高い大会となりました。



▲男子の部1位でゴールするジョハナ・マイナ選手



▲初出場で女子の部優勝を果たした前田彩里選手

また、当日はゲストランナーとして、シドニーオリンピック金メダリストの高橋尚子さんが4年連続で参加。沿道では多くの市民がランナーたちに大きな声援を送りました。

ハーフマラソン登録の部男子では、ジョハナ・マイナ選手が1時間2分33秒で2年連続3度目の優勝。同じく女子では、前田彩里選手が1時間10分24秒で初優勝を飾りました。車いすの部では、樋口政幸選手が47分46秒で3年連続4度目の栄冠に輝きました。

このほか、仙台市陸上競技場周辺では、仙台マーボー焼そばや牛たん焼きなどの地元グルメの飲食ブースも設置され、走り終えたランナーや応援に訪れた人たちでにぎわっていました。

## 復興へ駆ける

地域もわが家も、

さらに備えをレベルアップ！

仙台市長 奥山恵美子



震災直後の平成23年夏、震災復興計画の策定に向け、5区それぞれにお話し合いを重ねる中でよく出たのが、「これまでの防災訓練は形式的だったから、もっと実践的な訓練に取り組みべき」というお声。また、従前の地域防災計画では、指定避難所は各地区に1カ所でしたが、「地形や距離等によっては複数の避難所が必要などころもある」

「避難所の運営方法も、全市一律ではなく、地域ごとに話し合っただけだ」といったご意見も多かったです。早速、地域防災計画の見直しにこうしたご提案を取り入れ、指定避難所に加えて、補助避難所の開設を可能としたほか、避難所の運営についても、地区ごとに避難所運営マニュアルとして整備を進めることとしたのが、平成25年の春。以来、2年が経過し、補助避難所の開設を予定している地区は、115カ所。また避難所運営マニュアルは、193地区のうち160地区で策定済みとなりました。

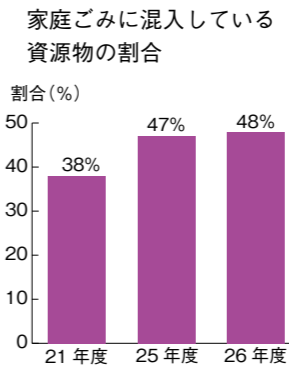
また、地区の防災訓練も、即戦力となるようさまざまな工夫を凝らす中、今年が目玉は夜間訓練。あの震災が暗くなつてから起こっていたら、どれほど被害が拡大したことか。避難所の開設も何倍も大変だったはず。そんな懸念や不安を実際に夜に実施することで、一つでも二つでも自信や新しい気付きにつながればと思います。

また、地区の防災訓練も、即戦力となるようさまざまな工夫を凝らす中、今年が目玉は夜間訓練。あの震災が暗くなつてから起こっていたら、どれほど被害が拡大したことか。避難所の開設も何倍も大変だったはず。そんな懸念や不安を実際に夜に実施することで、一つでも二つでも自信や新しい気付きにつながればと思います。

あわせて、家の中の備えも大切。いざという時の懐中電灯は、暗がりの中でも探せるようになっていきますか？非常用の一人一日当たり3リットルの水は1週間分備えてありますか？熱源がなくとも食べられる缶詰なども手元にあると心強いですね。備えあれば憂いなし」とはよく言ったもので、今回の震災でも、宮城県沖地震の教訓から進めてきた学校やガス管・水道管の耐震化等は、迅速な復旧に大きく貢献しました。国連の防災ローレルモデル都市の名に恥じぬよう、地域もわが家もさらなる防災力の向上を目指しましょう。

## 資源ごみの分別にご協力

震災後、紙類やプラスチック製容器包装など、家庭ごみに含まれる資源物の割合が急増しています。こうした状況を受けて、市は6月を「春のワケる強化期間」とし、街頭での啓発活動「ワケルくんの分別キャラバン」や「ごみ分別体験講座」などを実施します。さらなるごみの減量と分別の推進に向けて、皆様のご理解とご協力をお願いします。



運行できたことに対し、全ての関係者に感謝します」とのあいさつがありました。

マレーシア語で「平和」を意味する「アマン」の名を冠した、約8200トンを積載するタンカーは、平成9年から運搬を開始。片道約5200キロメートルを約8日間かけて、マレーシアからLNGを運んでいます。



## 省エネのため市職員が軽装で勤務

今年も、市職員は10月末日までの間、上着を着ない、ネクタイを外すなどの軽装で勤務します。これは、市の事業活動が環境に与える負担を減らす取り組みの一つで、市役所庁舎内の冷房温度を28度に設定し、省エネルギーと地球温暖化防止の推進を図るためのもです。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 杜の都を彩る「仙台・青葉まつり」開催

今年で31回目を迎える「仙台・青葉まつり」が5月16日・17日の2日間開催され、およそ96万人もの人々が祭りを満喫しました。初日の「宵まつり」では、市内各所ですずめ踊りの競演が繰り広げられ、約4千人の踊り手が躍動感あふれる舞で観客を魅了しました。また、初日の締めくくりには、復興祈願山鉾も登場。ちようちんをともした山鉾の巡行に、辺りは幻想的な雰囲気になりました。

2日目の「本まつり」の見どころは時代絵巻巡行。先陣を切る武者行列には、伊達政宗公の長男・秀宗公の宇和島市入部400年を記念して、歴史姉妹都市の宇和島市民も参加しました。さらに、青葉神社の神輿渡御、山鉾巡行、すずめ踊り大流しへと続き、観客が



▲伊達秀宗公にふんした宇和島市民も参加



▲東二番丁通を豪華絢爛な11基の山鉾が巡行

## 不適正な選挙事務に係る再発防止の提言

昨年12月の衆議院議員総選挙および最高裁判所裁判官国民審査における、青葉区選挙管理委員会での不適正な集計に関し、4月24日、第三者による再発防止委員会より再発防止のための提言が示されました。

提言では、過去10年間に執行された選挙の調査や、投票票事務に従事した職員へのアンケート調査などを踏まえ、問題点や改善点などを検証。正確性を第一とすること、二重チェックを徹底すること、ミス発生時の対処策を定めておくこと、職員の意識改革に取り組みこと、選挙事務に関して市民の理解を得るよう努めることなど、重視すべき観点が示されました。今後、市では実効性のある再発防止策を速やかに講じ、公正・的確な投票事務を行うことで、選挙制度への信頼回復に努めます。